

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室 [メールまたは電話])
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		科目コード	単位数	開講期
AIによるデータ活用特論		Z 159	1 単位	2 学期
Introductory Business Application of AI and Data				
科目分野		課程領域		
技術経営		イノベーションマネジメント共通科目		
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
村上 敏也	-	メールアポイントにて随時		

関連している科目(履修推奨科目)		
AIによるデータ活用実務特論1	AIによるデータ活用実務特論2	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

AI(人工知能)やデータ分析が急速なスピードで進化し、成熟化が進む情報社会においては、複雑な課題を分析とチームワークによって迅速に解決することが重要となってきています。業務効率化、新規ビジネス創出、顧客マーケティングなど、企業の大小にかかわらず様々な業界や業種においてAI技術を活用した取り組みが始まっています。本科目では、「AIを導入したいが、何から始めれば良いのか分からない」という方を対象に、データサイエンス、ビッグデータ、AIをつなぐ歴史的な潮流を俯瞰しつつ、データをビジネスにおける意思決定の向上と、コミュニケーションの改善にいかす実践力の獲得を目指します。

なぜデータ分析が実務で活用されないのか? AIによりビジネスの現場でデータ分析の活用は進むのか? 演習や討議を交えながら考えます。また、ビジネス課題を解決していくために必要なデータ分析リテラシー、相互に学び合う態度(学びの共同体)、あるいは組織的な学習という観点からも考えていきます。

到達(修得)目標

AI・データを経営の現場で意思決定とコミュニケーションの改善にいかす実践力を身につけるための基本となる知識や手法について体験的に直観をみがき、データにもとづく意思決定に慣れることを目指します。また、今後の経営において必要となるデータ分析リテラシーおよび相互に学び合う態度(学びの共同体)の涵養を目指します。

受講対象者

AI・データをチームワークでの意思決定や組織の課題解決に活用したいと考える全受講生

履修上の注意事項やアドバイス

本講義は、これまで統計やデータ分析について、ほとんど知識・経験のない方を想定して、講義とケースメソッドまたは演習により授業が進めていきます。統計、数学、あるいは数字に不慣れであっても、積極的に質問や発言をして、各自が持参するノートPCで実際に自分の手を動かしてみようとする好奇心と行動力が参加者には強く期待されます。この科目では単に教わることは期待せず、教員を含む他の参加者から情報を引き出し、また自分の考えや情報を他の参加者に提供し、相互の学びに貢献するチームワークを大切にしてください。講義による受け身の授業ではありません。なお、実際の授業計画および演習課題の内容は履修者の関心や経歴に応じて変更することがあります。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
 ※ 担当する教員は実務家教員とする。
 ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標					
知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案		Z5: 変革推進力		X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム					
イベント / ケース		教育技法		マテリアル / ツール	
1	独自コンテンツの講義	講義		PPT(授業内で配付)	
2	ケース教材:(AI・データの民主化)	ケースメソッド(グループ・クラス討議)		授業内で配付	
3	ケース教材:(AI・データ活用の事例)	ケースメソッド(グループ・クラス討議)		授業内で配付	
4	ケース教材:(AI・データ活用の要諦)	ケースメソッド(グループ・クラス討議)		授業内で配付	
5	グループワークによる課題発見・解決策の提案	グループワーク		PPT(グループ発表)	
6					

評価の方法		
(総合評価項目と割合)	評価の要点	
クラス貢献(討議・グループワーク)	70%	クラス貢献は、グループワーク、グループ討議、クラス討議における、発言内容の正誤ではなく、「参加者相互の学び」に貢献する発言・態度を評価します。各日の授業終了後に、個人ワーク、グループワーク、気付き・学び、自身のクラス貢献などをメモした、授業レポートを提出して頂きます。授業レポートは、A4一枚程度を想定しています。
授業レポート	30%	
	0%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	『人工知能』DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部(ダイヤモンド社) ※その他、講義資料を配布します	
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	『いちばんやさしい機械学習プロジェクトの教本』葦原祐介(インプレス) 『データ活用仮説量産 フレームワークDIVA』鈴木良介(日経BP)	

参考URL

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	オリエンテーション(人工知能とデータ分析、ケースメソッドとは?)	自社または実務に関連する分野におけるAIの具体的な活用について考えてきてください	村上	180分
	ケースメソッド(AI・データの民主化) グループ討議、クラス討議	ケース教材を読んで設問への回答を準備してきてください		
	イベント	ケース教材: (AI・データの民主化)、グループ・クラス討議		
3.4	ケースメソッド(AI・データ活用の事例) グループ討議、クラス討議	ケース教材を読んで設問への回答を準備してきてください	村上	180分
	グループワーク(実務における活用アイデアの共有)	自社または実務に関連する分野におけるAIの具体的な活用方法を整理してきてください		
	イベント	ケース教材: (AI・データ活用の事例)、グループ・クラス討議、グループワーク		
5.6	ケースメソッド(AI・データ活用の要諦) グループ討議、クラス討議	テキストの指定箇所を読んでください	村上	180分
	グループワーク(実務活用プロセスの整理)	自社または実務に関連する分野におけるAIの具体的な活用方法についてグループで分析してきてください		
	イベント	ケース教材: (AI・データ活用の要諦)、グループ・クラス討議、グループワーク		
7.8	実務課題の分析と解決案	自社または実務に関連する分野におけるAIによる具体的な課題解決策についてグループでまとめてきてください	村上	180分
	クラス発表と討議			
	イベント	グループワークによる課題発見・解決策の提案、クラス発表・討議		

- ※ 講義日程は、学事ポータル上の講義日程表をご参照ください。
- ※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
- ※ 講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。